

学芸館 攻守に戦力充実

春の岡山県高校野球を振り返って

春の岡山県高校野球大会（山陽新聞社後援）は4日、学芸館が初優勝を飾り、秋春連続の中国大会（6月3、4、6日・山口県）出場を決め幕を閉じた。夏の岡山大会のシード権をつかんだ8強を中心に振り返る。（稲垣心也）

学芸館は1試合平均で7点以上を奪取し、森下が全試合でホームを踏み7上を挙げ、失点は1点台。2試合得点。藤原、阿慶田を含む11人をゴールド勝ちし、攻守に頭。3番で計8長打とけん引した。一つ抜けていた印象だ。

投手陣の厚さも勝因だ。本格派右腕の伊藤と沖田が2試合で26四球を選び、12盗塁。合すつに先発し、エース伊藤は10犠打を絡め効率よく攻めた。防御率1・17（15回）と安定。6安打6盗塁のリードオフマンしていた。2試合合計6回で自



春は初の県大会優勝を飾り、閉会式で表彰される学芸館ナイン＝4日、倉敷マスカット（今中雄樹撮影）

学芸館

（注）太字は大会のシード校
 ■岡山県大会のシード校

熱戦の跡

関西	2	0
作陽	8	12
朝日	1	4
玉島	0	5
西大	12	3
倉敷	4	4
光南	9	0
美作	3	2
東工	1	11
笠岡	3	1
商大	2	10
学芸	8	1
金城	2	7
興商	6	0
岡山	4	8
大東	8	4
山陽	1	8
倉敷	4	3
就古	1	1
志学	6	3
学芸	6	2
学芸	6	6

シード獲得校 全試合継投 “分業制” 如実

実点のなかった左腕金田らブルペンも充実。計2失策のバックが好守で支えた。

全国的な潮流になっている投手の「分業制」が如実に表れた大会でもあった。9インニングの完投勝利は就実の左腕加藤のみ。6投手がマウンドに立った学芸館をはじめ、夏のシードに決まった8校は全試合を継投で戦った。

決勝の10回四球が惜しまれる光南だが、投手力でつかんだ準優勝だ。15回で14奪三振の主戦小主、救援で7回無失点の1年生左腕石井らが実力を見せた。準決勝で涙をのんだ山陽も昨秋優勝の原動力となった井川、西野の両右腕に、ドロップカブが印象的だった三浦が加わり投手陣の底上げが進んだ。そろってチーム打率が3割を切った攻撃を強化したい。

倉敷工は坂爪、石原の左右の好打者が好調を維持し、4強トップのチーム打率3割4分7厘を残した。捕手富村を中心とした粘り腰が光った作陽学園は、地区予選突破組で唯一の8強入り。

他のシード獲得校は、ともに優勝候補の一角と目された創志学園がエース不在、倉敷商が打線の決定力不足を露呈した。明確になった課題を夏は解消してくるだろう。準々決勝で完敗した理大付も経験を積んだ3人の2年生左腕ら個々の伸びしろを前向きに捉えたい。

無死一、二塁で攻撃を始めるとタイブレークが今大会から延長10回（従来は13回）に前倒された。2試合で適用されたが、いずれも1イニング目は同軍が無得点。特に攻撃面で対策の必要性を感じた。

◆準々決勝

倉	商	打	安	点
⑧	佐々	野	籠	21
④	藤	本		21
⑤	谷	谷		40
⑥	山	野		10
⑦	松	下		10
⑧	野	野		11
⑨	波	波		52
⑩	宅	宅		22
⑪	本	本		10
⑫	田	田		10
⑬	田	田		10
⑭	小	小		10
⑮	長	長		10
⑯	津	津		10
⑰	古	古		10
⑱	田	田		00
計				329

倉	商	打	安	点
④	南	本		41
⑤	本	野		41
⑥	上	野		11
⑦	田	野		42
⑧	持	野		23
⑨	野	野		44
⑩	原	野		41
⑪	本	野		20
⑫	井	野		10
⑬	藤	野		29
⑭	板	野		5
⑮	久	野		5
⑯	福	野		5
⑰	小	野		5
⑱	橋	野		5
⑲	石	野		5
⑳	小	野		5
計				329

倉	4	日	30	1160
球	7	4	2	41
光	7	4	2	41

【光南—倉敷商】5回裏光南2死一、二塁、4番藤田が中前適時打を放ち、2—1と勝ち越す。捕手津本—倉敷市営



連続四球から4点 突き放す

相手が見せた一瞬の隙を光南打線は見逃さなかった。同点の五回から登板した倉敷商の左腕増田が連続三振を奪ってから連続四球。「緊迫した展開で2アウトを取り少し気が緩んだところはあったはず。ここが狙い目だと感じた」。一、二塁で右打席に立った4番藤田は冷静だった。変化球の制球に苦しんでいた増田に対し、真っ直ぐ一本に的を絞ると、4球目の直球を中前に見事にはじき返した。

さらに四球を挟んだ満塁の場面で「1点だけでは物足りなかった」という久常が走者一掃の左越え二塁打で続き、流れをぐっと引き寄せた。優勝候補の一角を倒し、春は2年連続の4強入り。「今年は創立40周年で夏に懸ける思いは選手も首脳陣も強い。チームが一つにまとまっている」とOBの田野監督は言う。30周年だった2013年夏以来の聖地へ、春の戦いでさらに自信を付ける。(山根上貴)

光	南	0	0	0	0	0	0	0	1	1	8
商	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
本	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
二	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
三	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
四	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
五	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
六	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
七	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
八	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
九	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8

光南隙逃さず 一気

【評】光南が中盤に突球の投手陣は制球に課題を放した。1—1の五回から2死から2連続四球を足場に、二塁とし、藤田の中前適時打で1点を勝ち越し。さらに四球で満塁とすると、久常の走者一掃の左越え二塁打で3点を加えた。計11与四死

◆二回戦

倉	商	打	安	点
④	南	本		41
⑤	本	野		41
⑥	上	野		11
⑦	田	野		42
⑧	持	野		23
⑨	野	野		44
⑩	原	野		41
⑪	本	野		20
⑫	井	野		10
⑬	藤	野		29
⑭	板	野		5
⑮	久	野		5
⑯	福	野		5
⑰	小	野		5
⑱	橋	野		5
⑲	石	野		5
⑳	小	野		5
計				329

打となり、続く藤本が内野強襲の適時打。佐々岡は計3適時打の活躍で、5回2安打無失点の和田ら投手陣も盤石。商大付は七回に小野、角田の連続長短打で1点を返すのにとどまった。(稲垣心也)

以降、毎回得点圏に走者を進めながら攻めあぐねた。(山根上貴)

春の岡山県高校野球 22日開幕

山陽、創志、学芸館 V 争い

22日に開幕する春の岡山県高校野球大会（山陽新聞社後援）の組み合わせ抽選会が19日、倉敷市であり、別表の通り対戦カードが決まった。昨秋の県大会8強のシード校と、地区予選を突破した東部、西部各7、北部2校の計24チームが出場。5月4日まで、倉敷市のマスカットスタジアムと市営球場、美咲町のエイコンスタジアムを舞台に中国大会（6月3、4、6日・山口県）の出場権1枠と今夏の岡山大会のシード権を争う。

昨秋の中国大会に出場した山陽、創志学園、学芸館を中心に優勝争いは混戦とされている。組み合わせは秋の3

強が片方の山に偏った。順当なら夏のAシードを懸けた準々決勝で当たる山陽と創志学園、ともにセンバツをあと一歩で逃した悔しさを糧に、オフは投打をじっくり鍛えてきた。山陽は井川、西野ら本格派右腕をそろえる投手力を持ち味。創志学園は昨夏の甲子園で主力を担った上田、竹本がけん引する打力で対抗する。昨秋は県の決勝でぶつかり、山陽が終盤に逆転し4-2、再戦も接戦が予想される。

この2校に選手層で匹敵するのが秋3位の学芸館だ。昨夏以降、状態が万全ではなかった大型右腕の伊藤が復帰した。

他のシード勢は、倉敷工が昨春のセンバツを代打で経験した石原らが打撃

組み合わせ		29日	30日	5月3日	4日
関西	西園	22日 倉 9:00	9:00	マ	
作陽	日商	22日 I 9:00	9:00	倉	
朝玉	島大	22日 倉 9:00	9:00	マ	
倉光	工大	22日 倉 11:30	9:00	倉	
美東	山南	22日 I 11:30	9:00	マ	
笠岡	工大	22日 倉 11:30	11:30	倉	
商大	学芸	23日 倉 9:00	11:30	マ	?
倉学	光學	23日 I 9:00	11:30	倉	
金城	興商	23日 倉 11:30	14:00	マ	
岡山	大付	23日 I 11:30	14:00	倉	
理山	倉就	23日 倉 11:30	14:00	マ	
古勝	池山	23日 I 11:30	14:00	倉	
創志	学園				

[注] 太字はシード校。マはマスカット、倉は倉敷市営、Iは美咲・エイコンの各球場

に磨きをかけ、光南は長身右腕の小玉ら投手の底上げが図れた。予選突破組も夏のシード権を狙う。中でも有力なのは、柴田ら好打者が並ぶ岡山東商、増田ら打力が高い金光学園、本格派の頓宮を中心にタイプの異なる投手をそろえる就実あたり。笠岡工の森、興商館の山本空、倉敷の坂本ら好投手の活躍次第で、波乱も起きそうだ。

今大会から無死一、二塁で攻撃を始めるタイププレイクを延長10回（従来は十三回）から実施する。コロナ禍以降、自粛されていたスタンドでの声出し応援は間隔を保つことを条件に解禁。マスクの着用も個人の判断とする。

（稲垣心也）